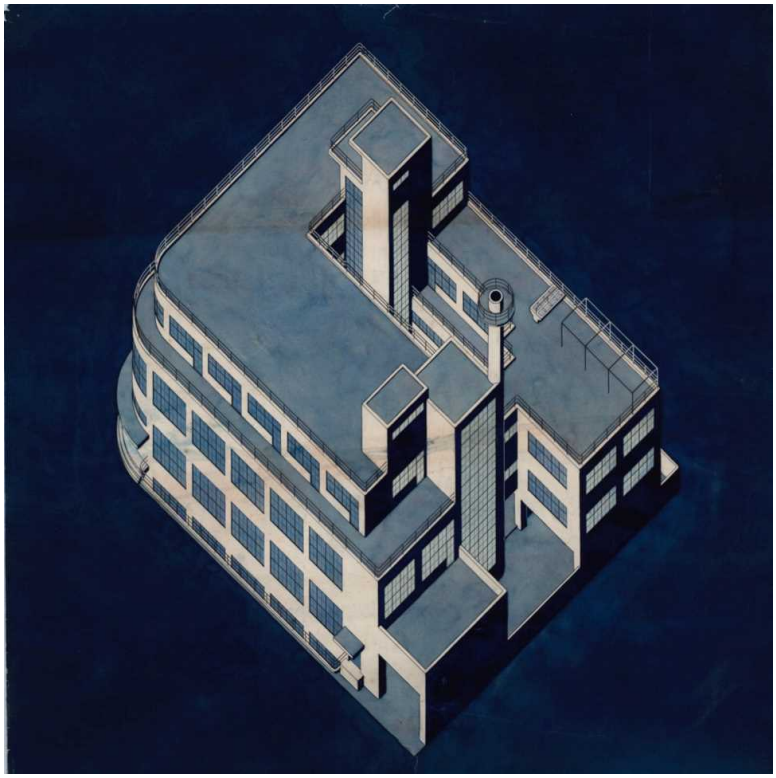
報道発表

令和元年１０月１日

文化庁国立近現代建築資料館
「吉田鉄郎の近代 ― モダニズムと伝統の架け橋」の開催について

文化庁では，令和元年１１月１日（金）から令和２年２月１１日（火・祝）まで，国立近現代建築資料館における令和元年度秋期展示として「吉田鉄郎の近代 ― モダニズムと伝統の架け橋」を開催します。



大阪東郵便局図面（1931 年）

【プレス向け展示説明会について】

一般公開に先立ち，令和元年１０月３１日（木）１２時３０分～１３時４５分，プレス向け展示説明会を開催します。取材を希望される場合は，１０月３０日（水）１２時までに下記のアドレスへ，貴社名・御名前・御連絡先をお送りください。

送 信 先：nama@mext.go.jp

記載事項：貴社名，御名前（御来館予定の全員分），御連絡先（電話番号／電子メールアドレス）

＜担　当＞　文化庁文化財第二課　国立近現代建築資料館

課長・館長	岡本　任弘	03-5253-4111（内線 2873）
副館長	浅田　泰司	03-3812-3401（直通）
主任建築資料調査官	頴原　澄子	（同）
資料館係長	山口　俊浩	（同）

１．開催主旨

吉田鉄郎は，日本の近代建築を牽引した逓信省営繕課を代表する建築家です。「日本的な近代建築」のスタイルを確立し，戦後の郵政及び電信建築，ひいては日本の近代建築全般に大きな影響を与えました。また一方，吉田は公務の合間に一人の建築家として住宅などの設計を数多く手掛け，逓信建築よりも自由度の高い作品を残しています。更に堪能なドイツ語を活かした著作・国際交流によって，日本の建築文化を広く欧米に紹介した業績も顕著です。

こうした多彩な活動に係る図面や著作などの資料が吉田の没後，日本大学の子弟やNTTファシリティーズなどに譲られ，現在に至っています。個人として手がけた住宅などは，基本図から詳細図まで一式が揃い，そのほかプライベートな写真や書簡など，これまで公開されることのなかった初出の資料を多く含んでいます。

本展ではこれらの資料を用い，吉田の人となりやその業績を振り返るとともに，吉田がヨーロッパの先進事例や日本の伝統を踏襲しながら目指した建築の姿を探っていきます。

２．開催概要

名　　称：吉田鉄郎の近代 ― モダニズムと伝統の架け橋

主　　催：文化庁

会期･時間：令和元年１１月１日（金）～令和２年２月１１日（火・祝）　10時～16時30分

（休館日は，令和元年１２月２９日（日）～令和２年１月３日（金））

内覧会：令和元年１０月３１日（木）14時～16時

会　　場：文化庁国立近現代建築資料館（東京都文京区湯島4－6－15 湯島地方合同庁舎内）

協　　力：NTTファシリティーズ逓信建築アーカイブス，公益財団法人東京都公園協会

企　　画：吉田鉄郎展実行委員会

田所辰之助（日本大学教授），大川三雄（元日本大学教授），観音克平（郵政建築研究所），吉岡康浩（NTTファシリティーズ），堀田渡（同），山崎徹（豊岡クラフト），川向正人（当館主任建築資料調査官・東京理科大学名誉教授）

３．展示内容

○設計図面，スケッチ，写真，著作等，約１５０点

○オーラルヒストリー上映：１．　内田祥哉（東京大学名誉教授）

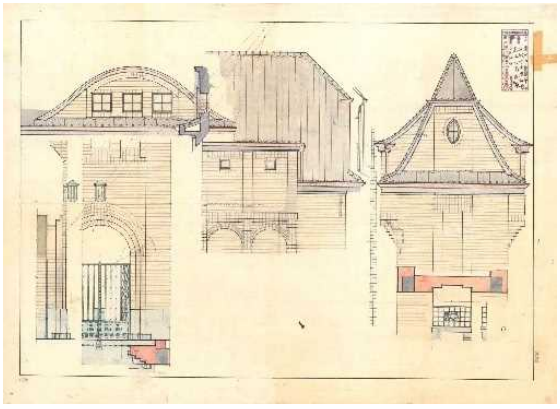
２．　馬場是久（馬場家当主）

３．　隈 研 吾（建築家・東京大学教授）

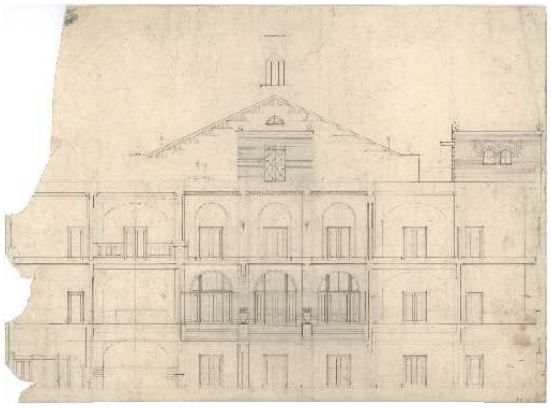
４．展示構成・主な作品

Ⅰ　様式の模索

大学の課題設計や卒業設計の作品から始まる。ヨーロッパの多様な伝統様式に学びつつ，次第に独自の表現主義的手法を確立する過程を追う。表現主義的な「ヴォリューム」，「素材」，「色」，さらには線と面の「変形」によって，洋と和，新と旧，都市と建築との間に異化／同化の関係（「架け橋」）を構築する，吉田の初期を中心に見てゆく。作品例として，京都中央電話局上分局（1924年），京都中央電話局（1926年），別府市公会堂（1928年）など。



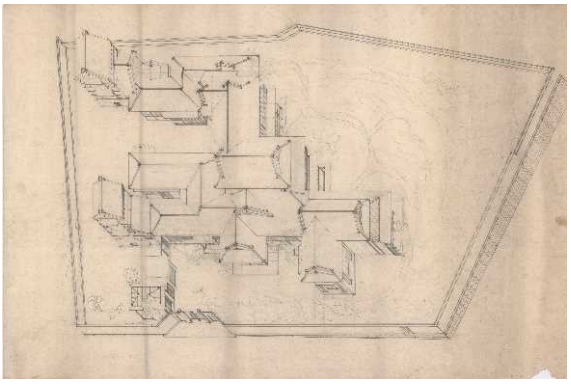
京都中央電話局上分局（1924 年）図面
NTT ファシリティーズ逓信建築アーカイブス蔵



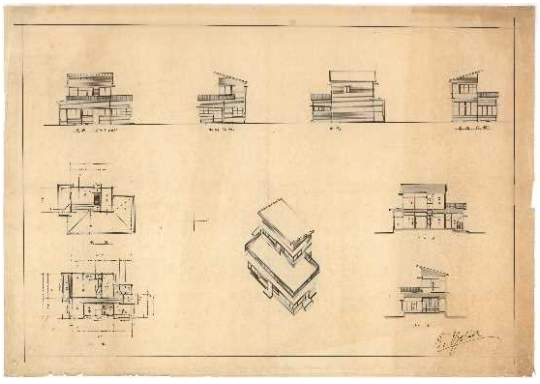
別府市公会堂（1928 年）図面

Ⅱ　住宅における「架け橋」の思想と手法

Ⅰで見たモダニズムと伝統に橋を架け渡す試みを，吉田が逓信省外で設計した住宅作品を通して，ここでは初期に留まらずに，一気に後期まで見てゆく。変化する日本人の生活様式，それに伴って必然的に高まる洋と和，新と旧の調整に関する実に興味深い吉田の思想と手法が示される。作品例として，馬場氏牛込邸（1928 年），馬場氏烏山別邸（1937 年），朽木氏銷夏荘など。



馬場氏牛込邸（1928 年）図面



朽木氏銷夏荘図面

Ⅲ　逓信建築を中心に見る「日本的な近代建築」の探求

Ⅱを経て日本特有の生活様式や歴史風土への理解を深めた吉田が提案する近代日本の「現在」に相応しい建築の姿を，図面・写真などの建築資料の中に探ってゆく。彼の中期から後期にかけての動き。作品例として，灯台寮（1943 年），大阪東郵便局（1931 年），東京中央郵便局（1931 年），大阪中央郵便局（1939 年）など。

灯台寮（1943 年）透視図

東京中央郵便局（1931 年）写真
NTT ファシリティーズ逓信建築アーカイブス蔵

Ⅳ　海外交流と著作など

Ⅲに述べたような日本に相応しい建築の探求は，1931 年から翌年にかけての欧米の視察旅行とその後の海外建築家との交流によって急速に深まり，形をなしてゆく。訪日するブルーノ・タウトなどとの交流もその一つであり，ドイツ語による著作『日本の住宅』(1935 年)の刊行も欧米建築界での彼の評価をますます高めることなどを，関連資料を使って紹介する。

５．関連イベント

会期中に３回のギャラリートークを開催します。（実行委員の肩書は前掲）

1.「吉田鉄郎の住宅にみるモダニズムと伝統」　令和元年 11 月 9 日（土）13:30～15:30
　大川三雄・山崎徹

2.「吉田鉄郎の建築とその現代性」　令和元年 11 月 30 日（土）13:30～15:30
　塚本由晴（東京工業大学大学院教授）・豊川斎赫（千葉大学大学院准教授）・田所辰之助

3.「吉田建築の保存と再生」　令和元年 12 月 21 日（土）13:30～15:30
　横田昌幸（NTT ファシリティーズ）・観音克平

モデレーター：川向正人

出演者は，都合により変更する場合がございます。
詳細については，当館ホームページ（http://nama.bunka.go.jp/）でご確認ください。

■ 吉 田 鉄 郎 略 歴

吉田鉄郎
NTT ファシリティーズ逓信建築アーカイブス蔵

明治 27（1894）年：富山県東砺波郡福野町 五島家の三男として生まれる
大正　4（1915）年：第四高等学校卒業，東京帝国大学理科大学理論物理学科入学
大正　5（1916）年：同大工科大学建築学科転入学
大正　8（1919）年：逓信省経理局営繕課入省
昭和　6（1931）年：1 年間にわたり欧米出張
昭和 16（1941）年：東京中央郵便局並びに大阪中央郵便局の設計に関し第一回逓信協会功労賞受賞
昭和 19（1944）年：通信院公務局営繕課辞職，富山に一時帰郷
昭和 21（1946）年：宮内省内匠寮嘱託，日本大学教授就任
昭和 28（1953）年：著作『日本の建築』（独文）において日本建築学会賞受賞
昭和 31（1956）年：東京荻窪の自宅にて逝去（享年 62 歳）